

東北大学生の留学及びカリキュラムの国際化に関する意識

神谷 哲司・工藤 与志文・田中 光晴・安保 英勇・
深谷 優子・若島 孔文・本郷 一夫
東北大学大学院教育学研究科

要約

高等教育の国際化の中で、東北大学生の留学に対する意識を明らかにすることを目的とした。すべての学部の1年生に質問紙を郵送し、296名分が回収された。結果として主に以下のようなことが明らかとなった。(1)ほとんどの学生が外国に行ったことがないか、1ヶ月以内の短期の滞在であった。(2)留学に対する意識については、「外国に行ってみたい」「外国語能力を高めたい」とする者が多く、外国語での学位取得や外国での就労といった希望はそれほど見られなかった。(3)留学する条件として、留学先の治安や安全、受け入れ態勢と自らの外国語能力、さらに、金銭面も心配のないこと、大学での修学年数を超えないこと、就職活動などに支障のないことなどを重視していた。(4)現時点では、留学準備をほとんどしておらず、外国語学習も大学の講義などで行うのみであり、特に、英語を「話す」「聞く」については自信がない。

キーワード：国際化，留学，カリキュラム，東北大学，グローバル人材

【問題と目的】

グローバル化の進行に伴い、日本の大学においてもさまざまな「国際化」の波が押し寄せている。実施の決断には至らなかったものの、東京大学は平成23年春から、「秋入学」制度について検討を始め（舘，2012）、平成24年度にかけて高等教育の国際化とともに「秋入学」が大きな話題となった（例えば、和田，2012；山内，2012）。そうした中、東北大学では、平成24年に、1年生を対象に意識調査を実施し、秋入学導入に関する賛否、秋入学導入にともなう不安や懸念等を検討した。その結果によると、①秋入学への賛成は少なく、秋入学導入にともなう留学意欲の向上はあまり見られないこと、②特に、秋入学導入に反対する学生層において留学に対する興味・関心が低いこと、③しかし、大学側が用意する海外研修のプログラムへの参加希望は全体的に多いこと等が明らかとなった（東北大学大学院教育学研究科秋入学検討WG，2013）。

これらの結果から、東北大生の留学意欲を促進するためには、秋入学導入に消極的な学生層に対して、プログラムの提供等、積極的な働きかけを行うことが必要であることが示唆されるとともに、大学生の留学意欲および意欲を高めるための諸条件について焦点を絞り、国際的に検討する必要性があることが明らかとなった。具体的には、東北大生、本

学の留学生および海外，特に東アジア（韓国・中国・台湾）の大学生を対象に国際意識調査を行うことで，入学時期・受入体制のあり方・懸念材料などが留学意欲に及ぼす影響を検討し，留学意欲向上の必要条件を明らかにすることが求められているのである。そのことで，今後，東アジアの学生の日本留学を促進する方策を立てる上での基礎資料が得られるとともに，東北大生に対する調査結果と比較検討することにより，それぞれの学生の留学意欲の違いや特徴を明らかにすることも可能になると思われる。

上記のような研究の枠組みを有しつつ，本稿では，まず平成 25 年度に実施された，東北大学生を対象とした意識調査の基礎報告を行うこととする。

【方法】

調査対象と方法：東北大学に平成 25 年度に入学した 1 年生 2552 名を対象とした郵送法による質問紙調査を行った。住所不明であった者を除いた 2541 名に質問紙を郵送したところ，回収された質問紙は 296 名分であった（回収率は 11.6%）。

分析の対象となったデータは，性別，男性 203 名（68.6%），女性 92 名（31.1%），不明 1 名（0.3%），年齢，平均 19.2 歳（SD=0.90 歳）であった。また，所属学部は，図 1 の通り，概ね，1 年生の入学定員を反映した割合であった。

調査時期：平成 26 年 1 月

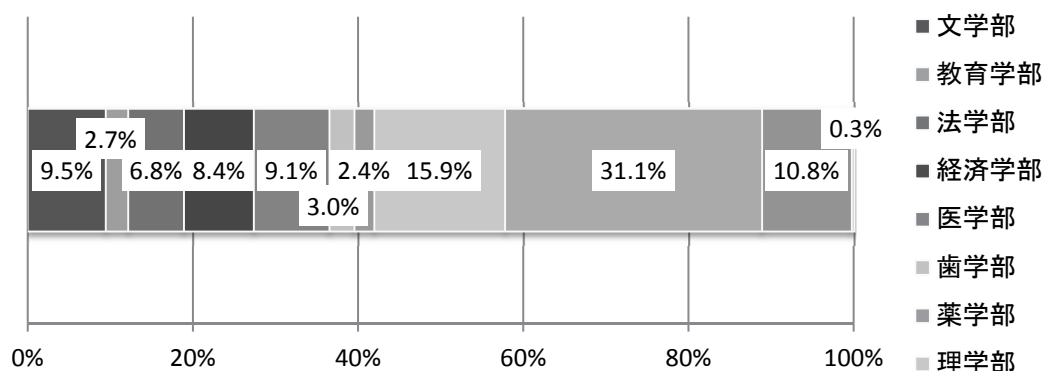


図 1 対象者の所属学部(N=296)

調査項目：FQ.フェイスシート情報（性別，年齢，所属学部），Q1：家族の外国居住経験の有無，Q2：学生自身の外国渡航経験の有無，Q3：（Q2 で「長期留学」「短期留学」経験ありとした人を対象に）「期間，渡航時の年齢，留学先国名」，Q4：外国留学の希望の有無，Q5 希望する留学期間・時期・留学先，Q6：留学に関する意欲や意識，Q7：留学する際に重視する条件，Q8：留学準備状況，Q9：外国語学習機会，Q10：英語資格の有無，Q11：英語スキルの自信，Q12：大学の授業を英語で開講することに対する賛同の程度，

Q13：TGL（東北大学グローバルリーダー育成プログラム¹）への参加状況，Q14：グローバル人材に必要と思う資質，Q15：「グローバル人材」への願望，Q16：「グローバル人材」の資質や特徴（自由記述），Q17：東北大学の国際化への要望・意見（自由記述）。

【結果】

以下，設問ごとの基礎集計を報告する。

1. 家族の外国居住経験の有無

「いる」43名（14.5%），「いない」249名（84.1%），「不明」4名（1.4%）であった。

2. 外国渡航経験（複数選択可）

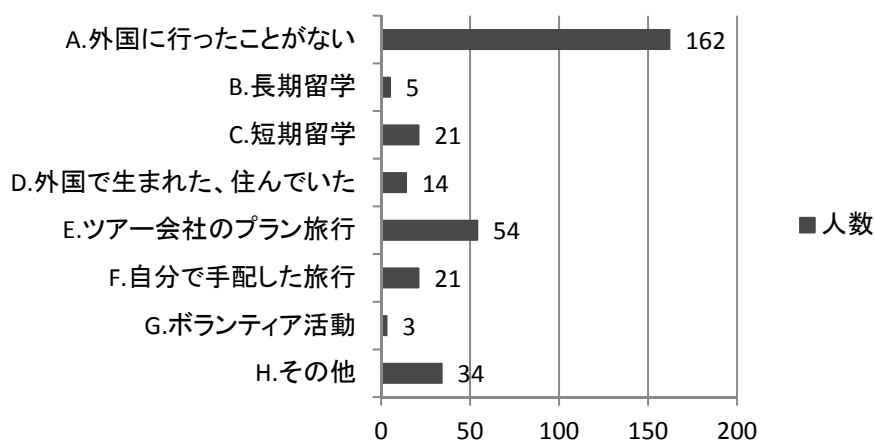


図 2. 外国渡航経験の有無（M.A.）

外国への渡航経験(図 2)については、「外国に行ったことがない」が 162 名（54.7%）と半数を超えており，経験のある者で多かったのは，「ツアー会社のプラン旅行」54 名（18.2%），「その他」34 名（11.5%），「自分で手配した旅行」21 名（7.1%）であり，「短期留学（半年以下）」が 21 名（7.1%），「長期留学（半年以上）」は 5 名（1.7%）にしか過ぎなかった。なお，その他の内実について見てみると，「家族旅行」，中学や高校の「修学旅行」や「交換留学」，「親の仕事の都合」といった回答が見られていた。

3. 長期留学・短期留学した際の期間・年齢・留学先

次に，長期留学・短期留学したと回答した述ベ 26 名（実数 25 名）について，留学した際の回数，期間，年齢，留学先を見てみた。留学回数は，1 回が 23 名，2 回が 3 名であり，留学期間は最長どれぐらいかに着目してみると，6 週間未満とする回答が 21 名で，短期留学の全員が 6 週間以内であった。また，半年以上の長期留学をした学生の内訳は，「1

年2ヶ月」1名、「3年間」1名、「3年半」1名、「4年間」1名であり、その渡航先を見たところ、いずれの学生にも「日本」との記述があったことから、長期留学をしている学生はすべて、現時点で東北大学に留学している学生であると推察される。また、短期留学も含めた渡航先について見てみると、アメリカ11名、イギリス2名、オーストラリア4名、カナダ5名、ベトナム1名、台湾1名、日本5名（先述のように留学生と推定される）であった。

4. 外国留学の希望の有無

大学院も含んだ在学期間中における留学希望の有無について尋ねたところ、「はい」173名（58.4%）、「いいえ」119名（40.2%）、「不明」4名（1.4%）であった。

5. 希望する留学の期間・時期・留学先

外国留学を希望する学生を対象に、希望する留学の期間・時期・留学先について自由記述欄を3つ設定して尋ねた。その際、「複数回の留学を考えている人は、現在から時間的に近い順にそのすべてを教えてください。」と教示し、各々について記入してもらった。そこで、記入された数を算出すると、希望する留学回数は、「1回」127名、「2回」17名、「3回」8名であった。記入された留学のうち、各個人の最長期間をまとめてみると、「1ヶ月以内」62名、「3ヶ月」19名、「～6ヶ月（半年）」23名、「～1年（12ヶ月）」37名、「～2年」6名、「長期休暇」や「無期限」などと記入した「その他」が3名であった。また、記入された留学希望のうち、最近の時期は、「1年生」6名、「2年生」62名、「3年生」19名、「4年生」3名、「大学在学中」20名、「大学院」34名、「その他（いつでも等）」3名であった。また、希望する留学先の国数は「1か国」82名、「2か国」38名、「3か国」11名、「4か国」5名、留学先については、その記述が多様であり単純に算出しづらい面もあるが、地域でまとめると、「欧米」175名、「オセアニア」19名、「アジア」12名、「アフリカ」1名、「英語圏」3名、「未定、どこでもよい等」7名であった。

6. 留学に関する意欲や意識

留学に対する意欲や意識など、広く留学に対する意識について尋ねた（図3、N=295）。「そう思う」と回答した割合の高い項目を見てみると、「外国に行ってみたいと思う」（69.5%+18.6%；「そう思う」、「ややそう思う」の割合、以下同）、「外国語能力を高めたと思う」（62.0%+29.2%）の2項目が過半数を超えており、「そう思う」に「ややそう思う」を加算した賛意のある項目で過半数を超えていたのは「異文化交流をしてみたいと思う」（46.1%+32.9%）、「留学してみたいと思う」（42.4%+24.7%）、「外国人の友達をつくりたいと思う」（40.7%+35.3%）、「留学したら、専門分野での勉強・研究に役立つだろうと思う」（36.3%+39.3%）、「ボランティア活動や個人の研鑽などを含め広く学びたいと思う」

(35.3%+36.9%), 「留学したら、就職活動に役立つだろうと思う」(28.5%+39.3%) などであり、「外国語で学位取得」(11.5%+17.3%) や「将来外国で働きたい」(9.8%+23.1%) は全体的に低い値であった。

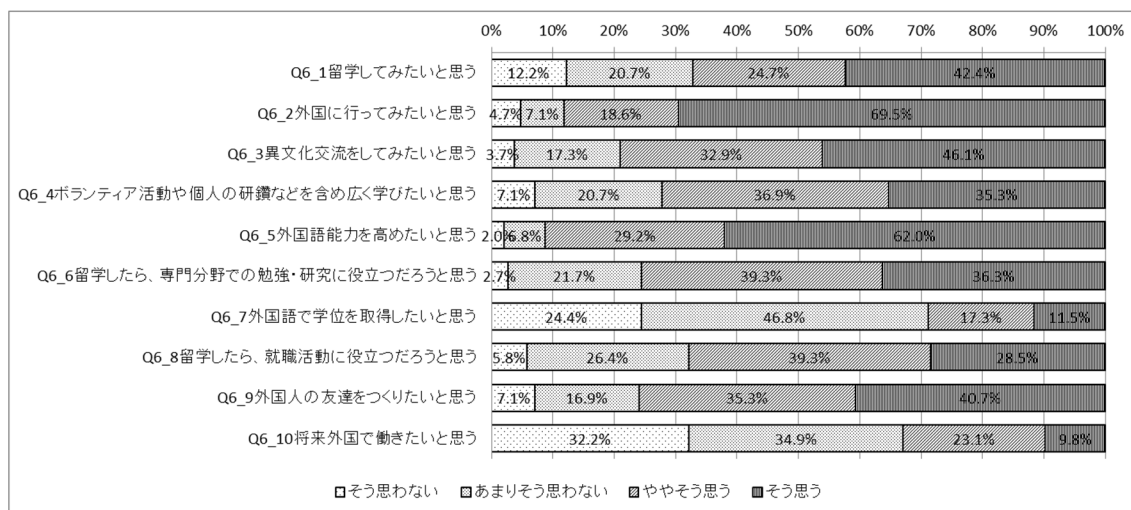


図3 留学に関する意欲や意識

さらに、この「留学に関する意欲や意識」については、図3の項目だけでなく、自由記述欄も設けた。その回答について、いくつかのカテゴリにまとめた結果を図4に示す(n=36)。

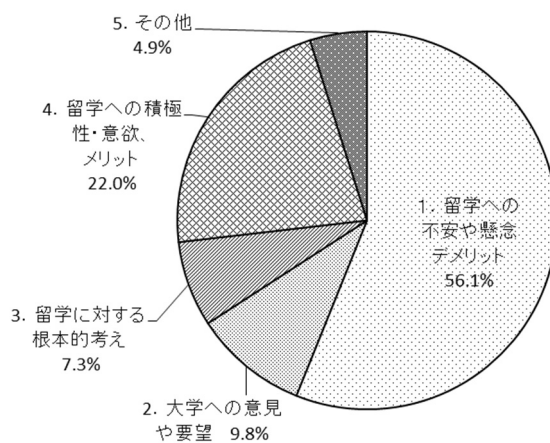


図4 留学に関する意識 (自由記述)

最も多かったのは、「留学への不安や懸念、デメリット」であり、具体的には、「金銭・時間・留年・語学力・治安・情報不足」といった点に不安や懸念を示した回答であった(23名)。たとえば、「お金と時間がネックです。」「日本にいるだけでも不自由しないし、もし

仮に留学を考えてもお金がないので実現はできないように感じる。」「大学を休学してまで、外国で学ぶということは、多くの人が負担に思っているうちのひとつだと思う。」「留学を経験することで自分にプラスとなることが多いとは思いますが、自分の語学力では海外で十分な行動ができないので、どうしても留学というものが身近なものに感じない。」「日本の安全さに慣れてしまったため、外国に行くことが非常に怖い。」といった意見が見られた。次に、「大学への意見や要望」(4名)では、「工学部の学生は留学しないでほしい的なことをオリエンテーションのときに言われた。大学が目指している姿と矛盾していて残念だった。」「『語学留学』というものがあるが、語学はツールの1つであり、言語またはその地域の研究に将来関わる者以外には特に必要ないのでは、と感じることがある。その国に行って、何を行うことができるのかをもっと推すべきだと思う。」などが見られた。3番目の「留学に対する根本的考え」(3名)は「日本でやれる経験もあるから、無理に留学を勧めるのはよくないと思う。あくまで、留学は個人の意欲で行われるべき。」「留学することに意義があるのではなく、留学して何を得たかに留学することの意義があると思う。」など、4番目の「留学への積極性・意欲、メリット」(9名)では、「留学することで見えてくる日本の良い点や悪い点を確認し、グローバル化が進む今日の世界の中で生きていく指針を見つけなくてはならないと思う。」「先日新聞で日本人の留学者数がアジアでかなり少ないことが分かり、驚いた。日本企業は現在、日本語のできる留学生を多く採用しているという現状があり、われわれ日本人もいよいよ海外で研鑽をつまねばならない時代なのかもしれない。」「自分の語学力を高めるために留学したい。また、異文化を肌で感じることは、今後の人生で役に立つと思う。しかし、留学をしたために、日本での大学の授業で遅れをとりたくない。したがって、夏休みや春休みを利用した1ヶ月~2ヶ月ほどの留学をしたい。」などであった。

7. 留学する際に重視する条件

すべての学生を対象として、「あなたが留学するとしたら、以下にあげる条件は、どの程度重視しますか。」と尋ねた(図5, N=293~294)。選択肢は「かなり重視する」「ある程度重視する」「重視しない」の3択で尋ねたところ、最も「かなり重視する」とした項目は、「留学先の治安や安全性」(82.0%)であり、順に「留学先の宿舎やサポートセンターの受入れ体制があること」(67.3%)、「自分自身の外国語能力」(65.0%)、「東北大学での学業・研究と両立がしやすいこと」(60.9%)、「奨学金が受けられること」(60.2%)、「交換留学制度があり休学する必要がないこと」(59.9%)、「事務的な手続きがしやすいこと」(53.4%)、「留学先でとった単位が卒業単位として認められること」(52.4%)、「就職活動の時期とかさならないこと」(50.2%)の項目が過半数を超えており、概して、まずは留学に関する受け入れ態勢と自らの能力、さらに、金銭面も心配のないこと、大学での修学年数を超えないこと、就職活動などに支障のないことといっ

た面が重視されているといえよう。

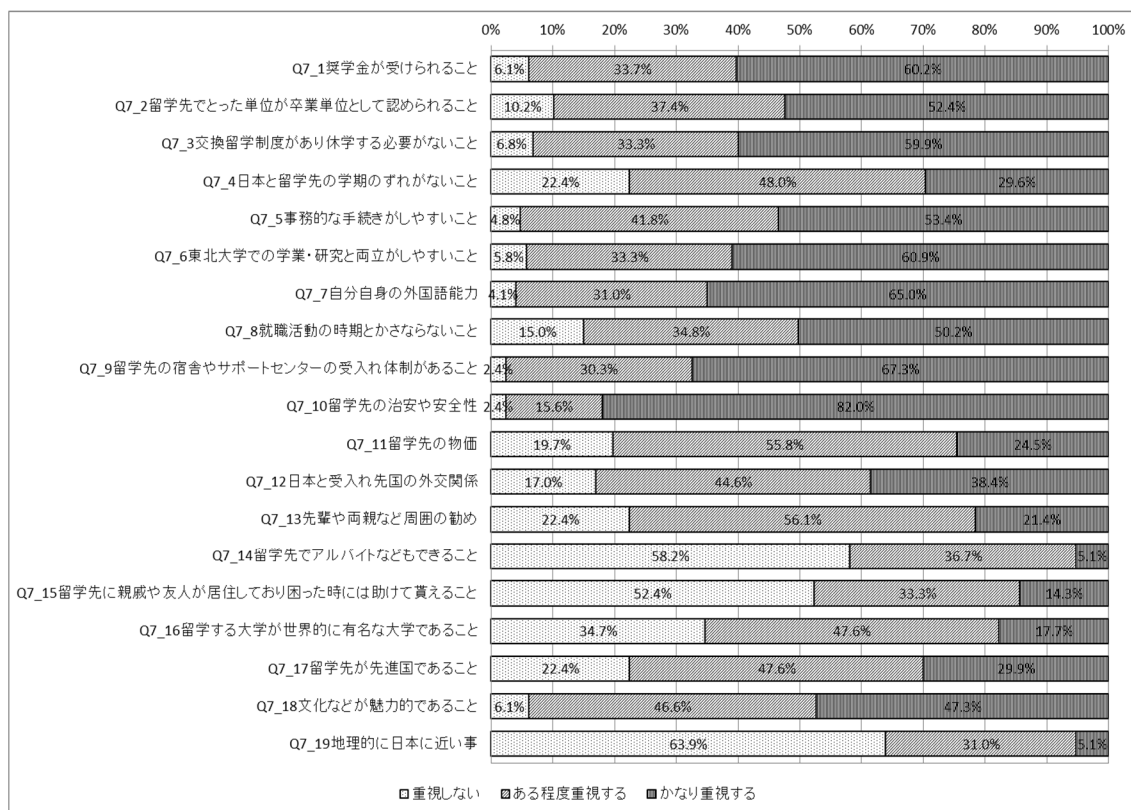


図 5 留学する際に重視する条件

8. 留学準備状況

留学に向けて準備していることについて、複数選択可で尋ねたところ、「特に何もしていない」と回答したものが 213 名 (72.0%) と 4 分の 3 弱を占めた。「外国語の学習」と回答したものは、68 名 (23.0%) であり、次に多かったのは「留学に関する情報の収集」47 名 (15.9%) であった (図 6)。

9. 現在の外国語学習機会

それでは、調査対象者はどのような機会に外国語に触れ、学習する機会を持っているのであろうか。複数選択可による回答によると、「大学での外国語科目授業」が 265 名 (89.5%) で最も高く、また「大学の講義」が 109 名 (36.8%) であり、いずれも大学での講義が高い結果であった。次いで、「書籍・参考書」は 88 名 (29.7%) であり、「PC やインターネットでの学習」43 名 (14.5%)、「留学生との会話」31 名 (10.5%)、「視聴覚教材」28 名 (9.5%) などはそれほど高い値を示してはいなかった (図 7)。

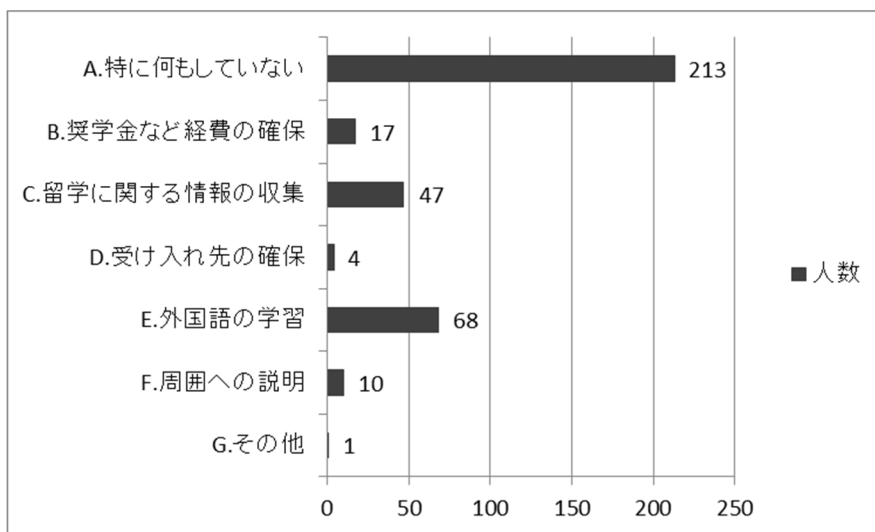


図6 留学準備状況

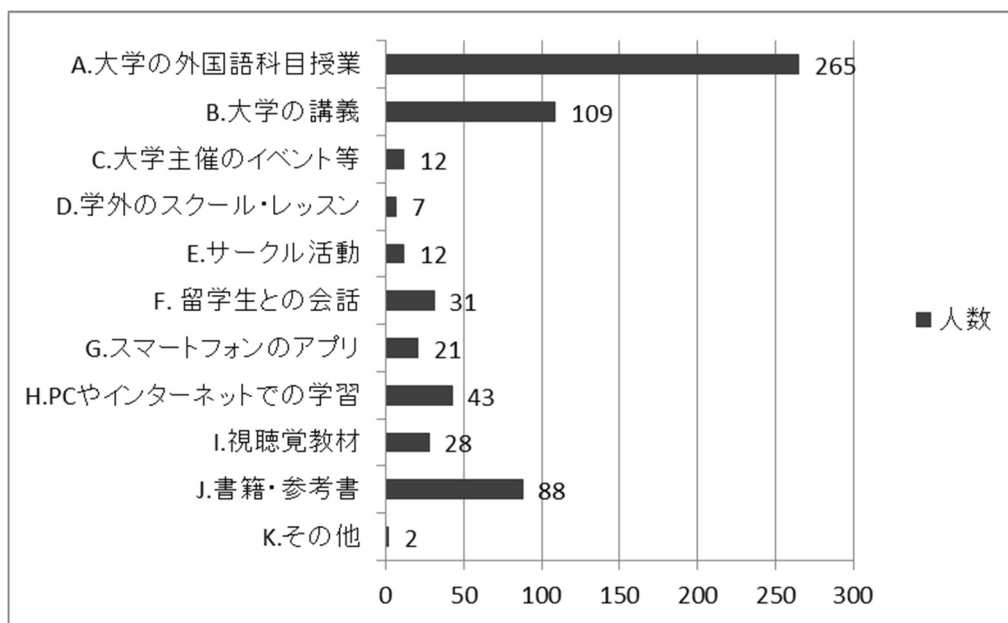


図7 外国語学習機会

10. 英語資格

英語資格の有無について尋ねたところ、「ない」とした回答が119名(40.2%),「ある」が169名(57.1%)であり、「不明」8名(2.7%)であった。

11. 英語スキルの自信

英語に関することがらについて、読み書きとリスニング、スピーキングについて、どの

くらいできるかを「よくできる」から「まったくできない」までの4件法で尋ねた(N=296)。その結果を図に示す。

全体的に「読むこと」については「よくできる」ならびに「ややできる」を合わせて212名(71.6%)が自信をもっているものの、「書くこと」は両者を合わせて150名(7.4%+43.2%),「聞くこと」は118名(5.4%+34.5%),「話すこと」については、75名(3.4%+22.0%)であった(図8)。

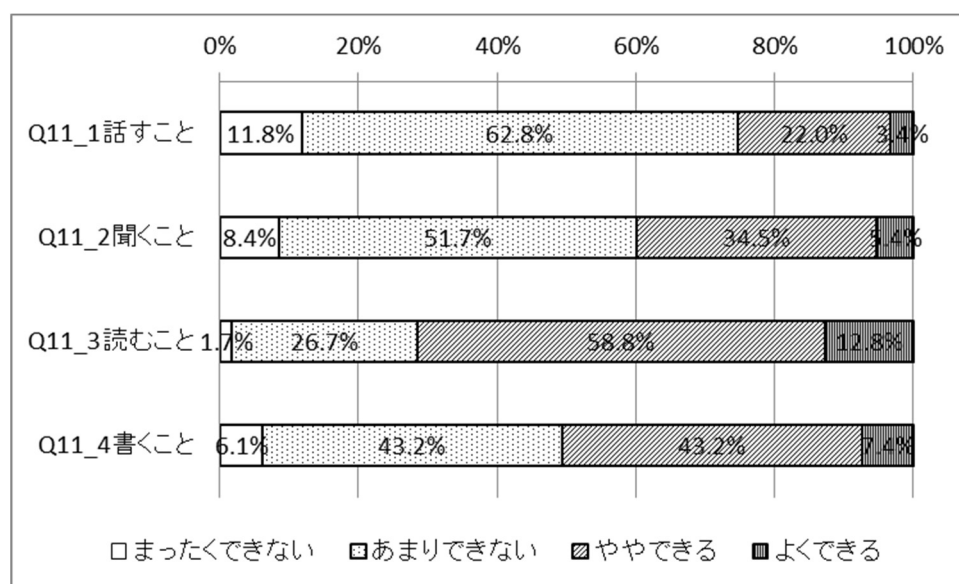


図8 英語スキル

12. 大学の授業を英語で開講することに対する賛意

東北大学の授業について、英語で開講されることについて、どの程度の科目での英語の授業を許容するかについて尋ねた(N=293~296)。選択肢は、「英語で開講する必要はない」、「全体の4分の1ぐらいの授業は英語開講で良いと思う」、「全体の半分ぐらいの授業は英語開講で良いと思う」、「全体の4分の3ぐらいの授業は英語開講で良いと思う」、「ほとんどすべての授業は英語開講で良いと思う」で問うた。全体として、全学共通科目の共通科目外国語として開講されている「英語」については、必修科目であることもあり、「ほとんどすべての授業」を望むものが26.7%、「全体の4分の3ぐらい」で15.5%、「全体の半分ぐらいの授業」でも29.7%であり、全体として半分以上の講義を英語で望むものは72.0%と極めて高い(図9)。

13. TGL(東北大学グローバルリーダー育成プログラム)への参加状況

TGLへの参加状況を尋ねた結果、「はい」52名(17.6%)、「いいえ」197名(66.6%)、「聞いたことがない」47名(15.9%)であった。

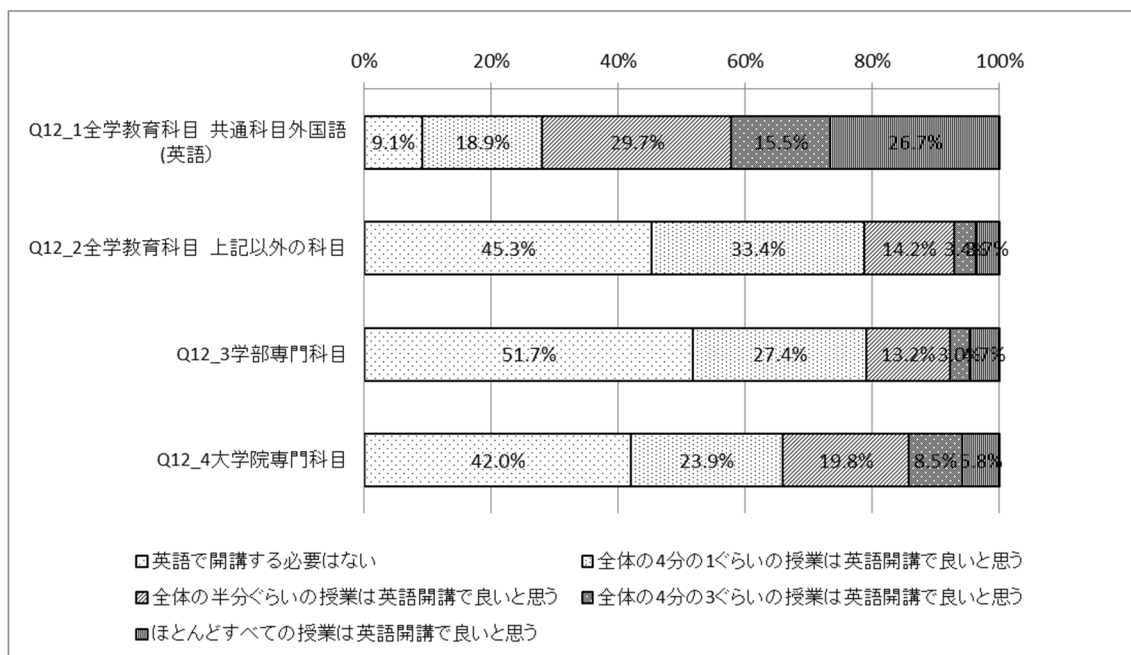


図9 大学の授業を英語で開講すること

14. グローバル人材に必要と思う資質

どのような資質を持った人を「グローバル人材」と考えているのかを明らかにするため、図10にあるような20個の選択肢を準備し、あてはまるものを3番目まで挙げてもらった。1番目の資質として最も多かったのは、「コミュニケーション能力」154名(52.0%)で、順に、「行動力」36名(12.2%)、「国際教養力」23名(7.8%)であり、これらで全体の7割を占めている。さらに3番目までに選ばれたもの全体を見てみると、先の3項目以外に、「英会話能力」、「異文化・国際理解力」が多く、次いで、「リーダーシップ」、「問題発見・解決能力」であった(図10)。

15. 「グローバル人材」への願望

さらに、グローバル人材になりたいかどうかを尋ねた結果では、「はい」161名(54.4%)、「いいえ」48名(16.2%)、「わからない」85名(28.7%)、「不明」2名(0.7%)であり、半数以上の学生が「なりたい」と考えていることが明らかとなった。

16. 今後の東北大学の国際化への要望・意見(自由記述)

国際化に関する大学への要望・意見を自由記述にて尋ねた。その結果、104名(35.1%)に記述が見られた。それらを概観して大別したところ、「留学しやすい体制づくりについて」、「英語教育の在り方や外国語でのコミュニケーションについて」、「国際化・グローバル人材育成について」、「外国人留学生からの要望」、「その他」に分類された(図11)。

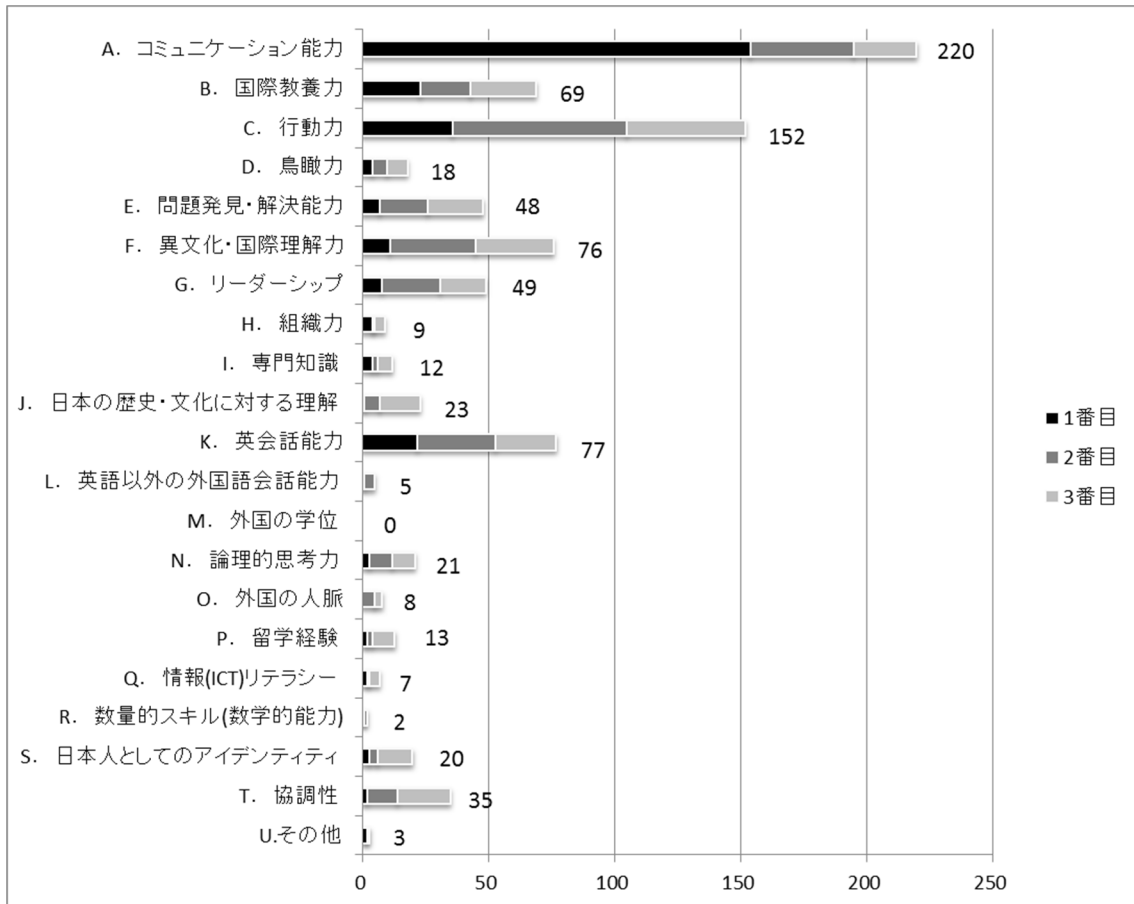


図 10 グローバル人材の資質

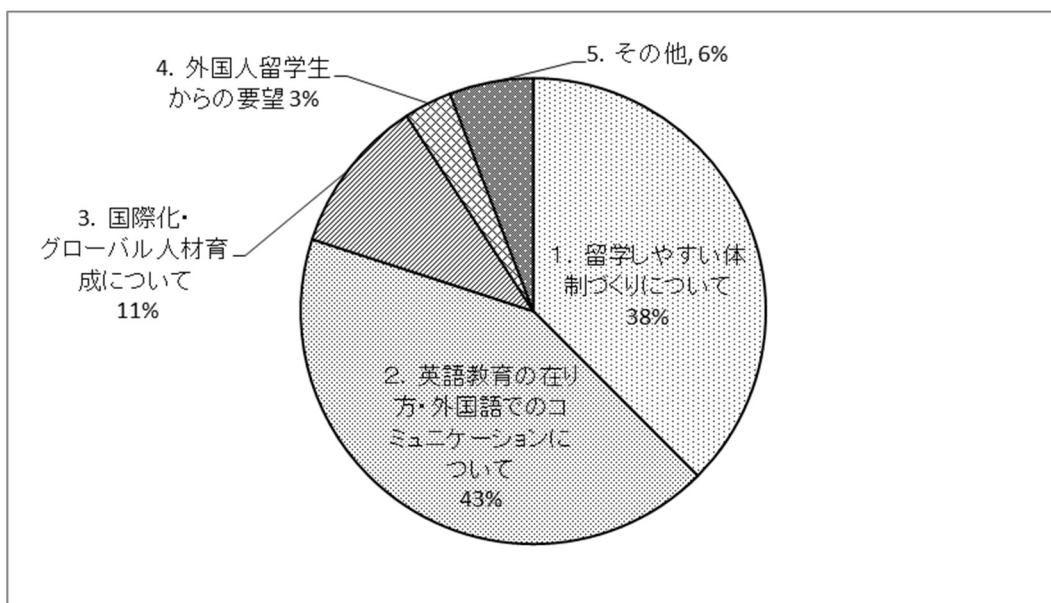


図 11 東北大学の国際化に対する意見（自由記述）

「留学しやすい体制づくりについて」は SAP (Study Abroad Program)² や TGL など、既存のプログラムに関する要望や留学支援の体制づくりに関するものが主であった。具体的には、SAP に関しては参加機会の増大を求める声が多く、留学支援に関しては、今以上の情報提供を望むもの、奨学金などの経済的支援を望むもの、また、単位互換制度などカリキュラムに関する記述が顕著であった。「英語教育の在り方や外国語でのコミュニケーションについて」は、現在の東北大学における英語教育について、ディスカッション形式など、「聞く」「話す」機会を主とするように望む声が多く見られたほか、TOEFL 受験義務についての不満も散見された。また、留学生との交流の機会を持ちたいとする要望も多かった。「国際化・グローバル人材育成について」では、国際化を謳う大学の姿勢に対する意見や留学する者としめない者の扱いに関するもの、例えば国際化を進めるために、「意欲のある者に集中的に力を注ぐべき」とする意見や逆に、「意欲のない者に対するアプローチを考えるべき」とする意見などが見られていた。

【まとめ】

本調査は本学の1年生を対象としていたこともあり、およそ半数の学生が外国に行ったことがなく、また、留学経験のある者もほとんどが1ヶ月未満の短期滞在であった。一部、親の仕事の都合などで長期滞在を経験した学生もいたが、大半は、海外での生活を体験していないと言える。また、6割弱の学生が留学を希望しており、「1ヶ月以内」を希望する者が62名であった一方、半年以上の留学を希望する者も40名を超えており、希望する期間はさまざまであった。留学希望先は「欧米」が175名で最も多かった。

そのような留学に対する意識については、「外国に行ってみたい」「外国語能力を高めたい」とする者が多く、外国語での学位取得や外国での就労といった希望はそれほど見られなかった。留学する際に重視する条件としては、まずは留学先の治安や安全を含めた、受け入れ態勢と自らの外国語能力、さらに、金銭面も心配のないこと、大学での修学年数を超えないこと、就職活動などに支障のないことといったことが挙げられていた。このように、複数の条件を重視する傾向もあり、現時点で留学準備としては、「なにもしていない」者が7割余りであり、ほとんどの学生が外国語学習も大学での外国語科目や大学の講義、書籍・参考書で進めているようであった。そのため、「読む」「書く」は比較的できるが「話す」「聞く」については自信がなく、留学条件としての「自分自身の外国語能力」が大きな障壁となっていることが推察される。

さらに、これらの結果を総体的に眺めた際、恣意的ではあるが、かなり受身な学生像が浮かび上がるように思われる。外国に行ったことはないし、行ってみたいのだけれど、具体的にどのようにすればよいかかわからず、具体的な準備はあまり積極的には行っていない。外国語の能力も、特に、「話す」「聞く」といった点で不安は高いが、自らそこを重視した学習を行うことはせず、大学の外国語の講義でやって欲しいと思っている。グローバ

ル人材とは、コミュニケーション能力や行動力のある人物であり、自分もそのようになりたいと思うが、留学したとしても、東北大学での学業・研究と両立ができ、4年間で卒業し、そのまま日本で就職したいとも考えている。もちろん、本調査を眺めれば、学生の留学に関する意識は多様であり、すべての学生が上記のような学生像にあてはまるわけではない。しかし、京都大学においても、「留学したい」が「特に何もしていない」《浮動層》の学生の存在が指摘されており(京都大学国際交流センターアンケート調査班, 2006), 上述のような「受動的な」浮動層がある一定数存在することは指摘できよう。今後は、留学意欲に関連する要因を検討するなど、さらなる分析を進めていく中で、そのような浮動層が持つ留学に対する潜在的欲求を具体的意思へと高めることが課題とされる。

【付記】

本研究は東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンタープロジェクト経費によって行われた。

【注】

- 1 東北大学において、学部生を主な対象に平成 25 年度から実施されている、「グローバル人材としての能力」を身につけることを目的とした教育プログラムである。詳細は、TGL の Web サイトを参照のこと。<http://www.tgl.tohoku.ac.jp/index.html>
- 2 東北大学グローバルラーニングセンター主催の短期海外研修である。詳細は東北大学グローバルラーニングセンターの Web サイトを参照のこと。
<http://www.insc.tohoku.ac.jp/cms/index.cgi?pg=140820151947>

【文献】

- 京都大学国際交流センターアンケート調査班. (2006). 京都大学における国際交流の現状と可能性：第 2 回アンケート調査報告書. 京都大学国際交流センター.
- 館昭. (2012). 学年制と秋季入学を考える. IDE 現代の高等教育, 541, 4-11.
- 東北大学大学院教育学研究科秋入学検討 WG(工藤与志文・神谷哲司・安保英勇・深谷優子・若島孔文・本郷一夫). (2013). 大学の秋入学に関する東北大生の意識調査報告書. 東北大学大学院教育学研究科
- 和田秀樹. (2012). 東大秋入学の落とし穴. 小学館.
- 山内太地. (2012). 東大秋入学の衝撃. 中経出版.